

# 創業者出身地への学生派遣プログラム “熟議” FINAL 開催

今年度初めて実施した「創業者出身地への学生派遣プログラム」について、プログラムの締めくくりとして、参加者・同行教職員・受入れ自治体職員によるプログラム総括及び次年度のプログラム編成（改善）にむけた提案のための熟議を実施しました。

プログラム参加者（参加地域・グループ混在）及び社会連携機構スタッフ、行政職員が、プログラムを通じて、それぞれの立場で得られたもの、気づいたことなどを語りあう場を通じて、参加者全体で創業者出身地への学生派遣プログラムについて考えました。

**日時** 2013年1月7日（日）

**会場** 明治大学駿河台キャンパス大学会館

**参加者** 学生23名、社会連携機構スタッフ9名、受入れ自治体（鯖江市）1名

## 熟議内容

- ①プログラム全般について（熟議を用いた地域の人々との交流・連携、事前学習・研究、現地フィールドワークなど）
- ②テーマについて（プログラムテーマ、グループテーマ）
- ③プログラムの感想（得られたもの、気づいたこと、良かった点、悪かった点）
- ④次年度のプログラムに望むこと、今後取り組んでみたいプログラム内容について

上記①～④の熟議内容をふまえ、

今回のプログラムの課題と解決策をまとめ、次年度のプログラムについての提案を発表用シート（2枚）で作成する。

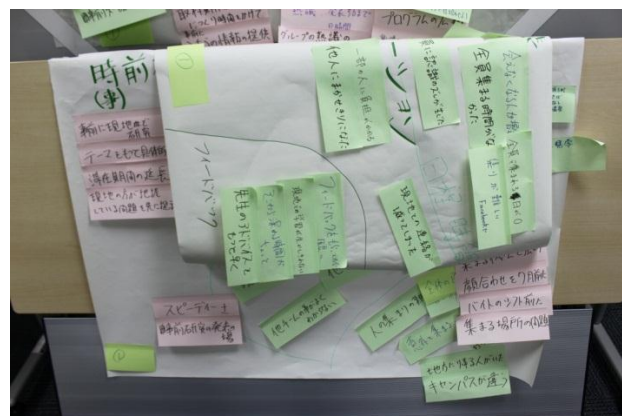
## 熟議～発表

参加者は5グループに分かれ、「創業者出身地への学生派遣プログラム」について熟議しました。

## グループ別熟議状況

【グループ①】		※ファシリテーター ◎現地プログラムグループリーダー		
No.	氏名	参加地域	参加テーマ	所属・学年
※1	藤江 昌嗣	鯖江, 天童		社会連携機構長
2	中村 未里	天童市	温泉	政治経済学部1年
3	竜澤 はるか	天童市	フルーツ	農学部1年
4	柴田 研三郎	鳥取市	◎空き家活用	商学部4年
5	包 辰	鳥取市	都会で売れる「鹿野ブランド」づくり	農学部2年
6	山下 龍太郎	鯖江市	◎中心市街地の賑わいの創出について	大学院商学研究科1年

## 熟議の様子



発表シート

主な課題点 -グループ1-

- 日程
- 最終目標
- 情報共有

解決策 -グループ1-

- 日程：早めの顔合わせ, +1日+熟議
- 最終目標：学生達で目標設定
- 情報共有：(学生) 事前発表 (現地に対して) 事前の情報提供



【グループ②】		※ファシリテーター ◎現地プログラムグループリーダー		
No.	氏名	参加地域	参加テーマ	所属・学年
※1	宮腰 哲雄	鳥取		社会連携副機構長
2	藤田 惇志	天童市	ホームタウンスポーツ	商学部3年
3	朴 何林	鳥取市	鳥取・鹿野のおもてなし	文学部2年
4	植村 正之	鳥取市	都会で売れる「鹿野ブランド」づくり	政治経済学部2年
5	伴 雄介	鯖江市	◎鯖江型の生涯スポーツ社会の実現	経営学部4年
6	渡辺 敏広	鯖江市		鯖江市役所
7	松尾 太博	鳥取市	◎鳥取・鹿野のおもてなし	経営学部4年

熟議の様子



発表シート

2班 課題点

- 前準備 < 全体で集合する機会
- スケジューリング < 出発前の情報不足
- グループ内 < 期間が間延び
- 現地 < 中間報告会後のすり合わせ
- 引きつぎ < 横のつながりが不足
- 引きつぎ < 情報共有不足
- 引きつぎ < 地域活性化に貢献できたか?
- 引きつぎ < 地域の人々と交流できたか?
- 引きつぎ < 次年度への企画の引きつぎもどうするのか?

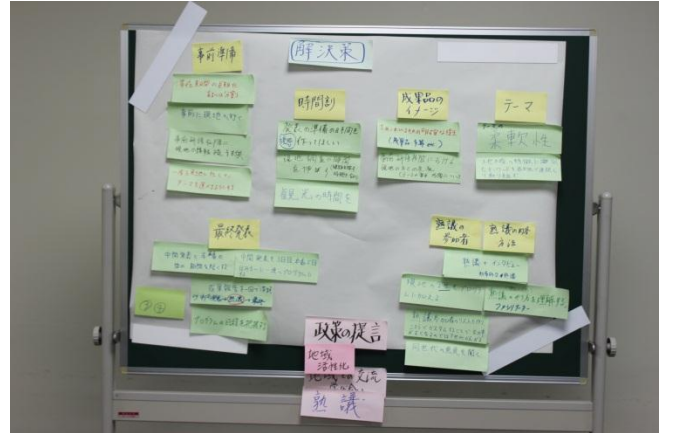
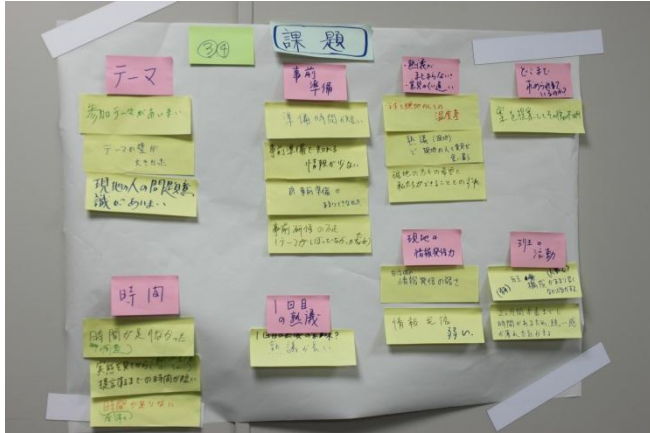
2班 課題解決策

- 7人バージョン対策
- 各グループのトップで競い、学長賞を授与!
- 引きつぎ
- 前年度、参加者がレクチャー!
- 次年度に広報係に!!
- 全体像を正確に伝える!

グループ③とグループ④は、出席者数の関係で合同熟議を実施しました。

【グループ③】【グループ④】		※ファンリテーター ◎現地プログラムグループリーダー		
No.	氏名	参加地域	参加テーマ	所属・学年
※1	源 由理子	鯖江		地域連携推進副センター長
2	戸川 翔太	天童市	◎温泉	情報コミュニケーション学部2年
3	久野 晃弘	天童市	歴史	経営学部2年
4	張 斯維	鳥取市	鳥取・鹿野のおもてなし	大学院法学研究科2年
5	坂田 直人	鯖江市	鯖江型の生涯スポーツ社会の実現	政治経済学部1年
6	須藤 友佳	天童市	ホームタウンスポーツ	経営学部2年
7	山田 康平	天童市	◎将棋駒	商学部2年

熟議の様子



発表シート

**<テーマ>**  
 問題点: 参考テーマがあまりない ⇒ テマではなく、問題点を意識してもらう  
 発表の準備の時間が少ない ⇒ 時間には余裕をもちめる  
 発表の日程が不明 ⇒ 滞在時間を伸ばして一連のプログラムにする

**<事前準備>**  
 問題点: 情報不足 ⇒ 事前準備の段階で、現地での調査が必要  
 ・現地の滞在時間を伸ばす  
 ・現地に行く前に、モビ情報を提供してもらう

**<時間>**  
 発表の準備の時間が少ない ⇒ 時間には余裕をもちめる  
 発表の日程が不明 ⇒ 滞在時間を伸ばして一連のプログラムにする

**<プログラムの目的>**  
 熟議と地域活性化のどちらがメインか不明 ⇒  
 ・地域活性化に重点を置く (現実的な企画の作成)  
 ・熟議に重点を置く (準備は気にせず実施し、熟議回数が多いようにする)

**熟議**

→ 若者中心  
 → 学生含む  
 + インタビュー

このあたり程度にする  
 ように  
 リスト

**テーマ熟議 | E4バージョン日程**

例A

1日目 フィールドワーク  
 2日目 フィールドワーク  
 午後 熟議  
 3日目 中間発表  
 熟議 - 2日目  
 4日目 フィールドワーク (自由時間)  
 まとめる時間  
 5日目 成果報告会

事前調査  
 事前調査の修正  
 フィールドワーク  
 学内発表を引継ぎ  
 King, spic 日程調整  
 2012 6/26音 19:00

**<熟議>**

熟議のタイミング  
 ・メンバー募集 ⇒ 現地の学生もプログラムに参加してもらう  
 ・参加者リストを作り、お礼程度送るようになる



【グループ⑤】		※ファシリテーター ◎現地プログラムグループリーダー		
No.	氏名	参加地域	参加テーマ	
※1	玉置 雅彦	天童		リバティアカデミー副アカデミー長
2	浮塚 利夫	鯖江		社会連携事務長
3	太田 直規	天童市	フルーツ	商学部3年
4	前田 晃穂	鳥取市	福祉政策を考える	法学部3年
5	田中 宣成	鳥取市	◎都会で売れる「鹿野ブランド」づくり	大学院グローバル・ビジネス研究科1年
6	開発 祐介	鯖江市	◎市民協働による食育推進	経営学部4年
7	内田 隼太	鯖江市	鯖江型の生涯スポーツ社会の実現	経営学部3年

熟議の様子



発表シート

◎課題 (この⑤グループ)

- ・プログラムの全日程が不明確
- ・事前学習・準備の不足

1

◎参考課題

- ・OBのあり方
- ・テーマ設定

2



◎解決策

- ・スケジュールの変更
  - (日程を今年度より早めに設定, 公表)

3

・事前準備の充実

- (現地での学習の前に現地の方とやりとり)
- ・ファシリテーター育成
- ・地域内のグループの連携

4

・他地域、ほかの班と交流

- (現地調査後の報告会)
- ・最終発表会のリハーサルをキチ合う。

5